

災害への 備えはOK!?

防災の“特効薬”はありません。
日頃の努力の継続が、あなたの命を守ります。

〈三重県に被害を及ぼした主な自然災害〉

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1944年 東南海地震 | 全国でも… |
| 1959年 伊勢湾台風 | 1995年 阪神・淡路大震災 |
| 2004年 台風21号豪雨 | 2004年 新潟県中越地震 |
| 2011年 紀伊半島大水害(台風12号) | 2011年 東日本大震災 など |
| 20XX年 東海・東南海・南海地震? | |



「いつでも、どこでも、だれでも」災害にあう時代

ポイント

事前の準備が大切です!



なます博士

平成23年度「みえ防災標語」受賞作品

小学校3年生以下の部 (最優秀賞)	高台に 何もたずに ますひなん (三重大学附属小学校2年生 宮口紗良さん)
小学校4～6年生の部 (最優秀賞)	ひなん場所 家族で言える 合言葉 (松阪市立花岡小学校5年生 松浦悠月さん)
中学生の部 (最優秀賞)	ます備え 助かる命 増やすため (桑名市立明正中学校2年生 南川佳崇さん)
一般(高校生以上)の部 (最優秀賞)	災害時 必ず役立つ 地域の絆 (四日市市 篠原有華さん)

地震・風水害に備えよう!

三重県

三重県で過去に起きた大災害

伊勢湾台風

昭和34年9月21日にマリアナ諸島の東海上で発生した台風第15号は、非常に広い暴風域を伴って北上し、26日午後6時過ぎ和歌山県潮岬の西に上陸しました。上陸後6時間余りで本州を縦断し、全国的に大きな被害をもたらしました。特に伊勢湾周辺地域での被害が大きく、後に「伊勢湾台風」と命名されました。木曾三川のデルタ地帯にある木曾岬、長島では押し寄せた高潮により堤防が決壊し、この地帯だけでも800人を超える方が亡くなりました。

9月26日は
「みえ風水害対策の日」



三重県内の被害概要

死者・行方不明者:	1,281人
負傷者:	5,688人
住家全壊:	5,386棟
住家半壊:	17,786棟
住家浸水:	62,655棟

出典:三重県地域防災計画添付資料

伊勢湾台風の気象特性

上陸時中心気圧:929.2hPa
上陸時風速:45.4m/秒(伊良湖岬)
高潮:3.55m(名古屋港)
波高:8~10m(湾外) 2.4m(名古屋港外)

出典:中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会資料より作成



桑名市長島町の被害状況(提供:輪中の郷)

東南海地震

昭和19年12月7日午後1時35分頃、熊野灘を震源として発生したマグニチュード7.9の巨大地震で、三重県や愛知県、静岡県を中心に大きな被害をもたらしました。県内被害のうち人的被害は津波によるものが多く、津波の高さの最大は尾鷲市賀田の9.0mでした。戦時中の情報統制下において発生した地震ということもあり、被害の詳細について不明な点が多く残されています。

三重県内の被害概要

死者・行方不明者:	389人
負傷者:	608人
住家全壊:	1,627棟
住家半壊:	4,210棟

出典:三重県地域防災計画添付資料



12月7日は
「みえ地震対策の日」



尾鷲市の被害状況(提供:太田金典氏)

知る

風水害

地域の危険箇所を知る

集中豪雨の発生回数が、近年増加していると言われています。日頃からタウンウォッチングを行うなどして、地域の危険箇所を知っておく必要があります。

台風や集中豪雨が原因となって起こる災害

洪水

大雨によって河川の流量が増大し、堤防の決壊などにより氾濫します。

土砂災害

長雨や集中豪雨により、土石流、地すべり、がけ崩れが発生します。

暴風

風速15m以上で風に向かって歩けなくなり、風速25m以上で屋外での行動は危険となります。

高潮

台風の接近に伴って発生することが多く、海水面が異常に上昇します。

防災マップで、家の付近の危険箇所や安全な避難経路、避難所などを、日頃から確認しましょう!



地震

東海・東南海・南海地震を知る

今世紀前半に、東海・東南海・南海地震の発生が予測されています。

◆東海・東南海・南海地震の想定震源域と発生年表



地震調査研究推進本部の長期評価(平成24年1月1日現在)

東海・東南海・南海地震が同時に発生した場合

- マグニチュード8.7
- 三重県で最大で死者が約4,800人、建物全壊が約69,000棟

◆東海・東南海・南海地震同時発生時の被害想定(三重県)

	早期(5時)		
	死者	負傷者	建物全壊(半壊)
揺れ	約1,700人	約11,700~ 約11,800人	約56,100~約59,000棟 (約92,000棟)
津波	防災意識:高 約1,000人 防災意識:低 約3,100人	—	約10,000棟 (約6,100棟)
計	約2,700~ 約4,800人	約11,700~ 約11,800人	約66,100~約69,000棟 (約98,000棟)

三重県地域防災計画被害想定調査報告書 平成17年3月

備える

台風や集中豪雨が来る前に準備する

家族で防災会議を開く

家族の役割分担、避難場所、避難経路、家族との連絡方法などを家族全員で確認しましょう。



大規模な災害が発生して電話がつながりにくい時は、安否の確認や連絡用手段として「災害用伝言ダイヤル」を活用しましょう。



災害用
伝言ダイヤル **171**
「171」を押した後、ガイダンスに従って、
伝言の録音・再生を行ってください。
録音…① 再生…②

住まいの点検をする

台風や大雨の前に、屋根や雨どい、外壁など住まいの点検を行いましょう。



非常持ち出し品を用意する

家族構成に合わせて非常持ち出し品を用意しておきましょう。また、少なくとも一年に一度は点検しましょう。

飲料水、食料(乾パンや缶詰など)、
ヘルメット、防災ずきん、救急セット、常備薬、
タオル、衣類(上着・下着類含む)、
携帯ラジオ、懐中電灯、現金(小銭等)等

地震に強い家にする

阪神・淡路大震災で亡くなった方の8割以上は、建物の倒壊等によるもので、ケガをした方の半数近くは家具の転倒によるものでした。住宅の耐震化や家具の固定を行いましょう。

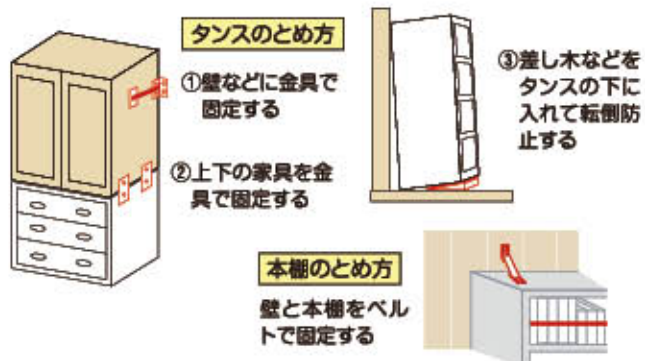
住宅の耐震化

阪神・淡路大震災では、古い木造住宅が多く倒壊しました。三重県内の各市町では、昭和56年5月31日以前に建築(着工)された木造住宅の無料耐震診断や補強工事等に対する補助を実施していますので、ご利用ください。



家具の転倒防止

家具は、金具等で固定し、転倒防止対策を行いましょう。また、寝る場所には、家具を置かない、配置を工夫するなど備えてください。市町によっては、家具固定費用に対して補助を実施していますので、お問い合わせください。



知る

土砂災害を知る

土砂災害には、主に、①土石流 ②地すべり ③がけ崩れの3つがあります。

三重県は、土砂災害の発生しやすい地形・地質特性を有しているため、集中豪雨や台風により過去に大きな災害に見舞われました。日頃から危険箇所を確認してください。

土石流



山、川の石や土砂が集中豪雨などによって一気に下流へ押し流されます。

地すべり



粘土などすべりやすい地層に地下水が作用して、地面がゆっくりすべて動き出します。

がけ崩れ



集中豪雨などにより急な斜面が崩れ落ちます。

お住まいの地域の土砂災害危険箇所は、ホームページから確認できます

三重県土砂災害情報提供システム

検索

紀伊半島大水害
(平成23年台風12号)
紀宝町地内



津波を知る

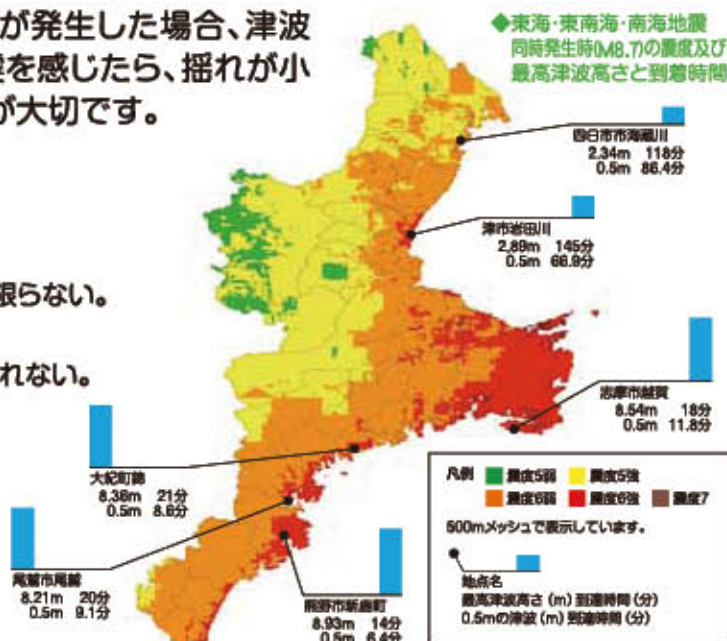
東海・東南海・南海地震など海溝型地震が発生した場合、津波が発生する可能性があります。海辺で地震を感じたら、揺れが小さくても、すぐに高い場所へ避難することが大切です。

津波の特徴

- ①津波の速さは大変速い。
- ②引き潮で始まるとは限らない。
- ③津波の高さは場所によって違う。
- ④繰り返してやってくる。第1波が最大とは限らない。
- ⑤川や水路をさかのぼる。
- ⑥たとえ50cm程度の津波でも立ってられない。



東日本大震災 宮城県山元町地内



震度：三重県地域防災計画被害想定調査報告書(平成17年3月 三重県)
津波：東海・東南海・南海地震対策に係る津波シミュレーション調査報告書(平成16年3月 三重県)

行動する

危険を感じたら、すぐ避難する

災害時には市町長が避難勧告や避難指示を発令する場合がありますが、災害時の避難で何よりも大切なのは、危険を感じたら自らの判断で避難することです。造成地、扇状地、急傾斜地、海岸地帯、河川敷など危険な土地では早めの避難を心がけましょう。

低

避難準備
情報

災害時要援護者（体の不自由な方、高齢者、乳幼児など）など、避難行動に時間を要する方は避難行動を開始します。

危険度

避難勧告

通常の避難行動ができる方は、避難行動を開始します。

高

避難指示

避難勧告よりも緊急度が高い場合に発令されます。事実上の避難命令に等しいものです。

避難するときの 注意点

- 運動靴を履く
- 2人以上で行動
- 車での避難は控える
- 動きやすい格好で
- 足下に注意する
- 高齢者や幼児を優先



地震が発生したら

3秒

地震だ!

- 落ち着け
- 身をかかせ



3分

揺れがおさまった

- 津波から避難
- 車で逃げるな
- 火元の確認
- 家族はだいじょうぶか
- ラジオをつける
- 靴をはく



3時間

みんな無事か

- 余震に注意
- ブロック塀やガレキに近づくな
- 漏電、ガス漏れに注意
- 隣近所で助け合おう



3日

無理はしない

- 水・食料は備蓄でまかなえ
- 行き先メモを玄関に
- 災害情報を入力
- こわれかけた家に入るな



防災・減災に向けて「備え」「行動」しよう

平成23年度の「防災に関する県民意識調査」では、東日本大震災の発生を受けて防災に関する関心は高まったものの、行動に結びついていないとの結果が出ています。

災害発生時の被害を最小限に食い止めるため、「三重県防災対策推進条例」の基本理念である自助・共助・公助のもと、日頃から「備え」「行動する」ことで、災害に強い安心安全な三重県を築いていきましょう。



自主防災活動に参加しよう

平常時の活動

- 防災訓練を実施する。
- タウンウォッチングをして、地域の危険箇所を知る。
- 災害図上訓練 (DIG) をして、災害が発生した時の対応を地図上で考える。
- 津波避難計画や避難所運営マニュアルを作成し、災害時に備えた実践的な訓練を継続的に実施する。



災害時の活動

- 初期消火や救出救護活動を行う。
- 災害時要援護者 (体の不自由な方、高齢者、乳幼児など) の安否確認・避難誘導を行う。
- 避難所の運営 (物資の配分、炊き出し等) を行う。



防災みえ.jp

<http://www.bosaimie.jp> へアクセス!



気象情報や被害情報、避難情報などを
携帯電話、パソコンから
ご覧いただけます

三重県内のお住まいの地域の活断層図や
津波浸水予測図がご覧になれます

メール配信サービス

注意報・警報、台風情報、
地震情報などがメールで配信されます。
登録方法 / a@bosaimie.jp へ
空メールを送信



防災啓発車を体験しよう!

東海・東南海・南海地震の同時発生による地震や過去に起きた阪神・淡路大震災などの震度を体験することができます。お住まいの地域の防災訓練や防災教育にご活用ください。

〈防災啓発車・まなぶくん〉



予約方法

依頼者

市町防災担当課・消防本部

三重県

※防災啓発車の貸し出しは、お住まいの市町防災担当課又は消防本部にご相談ください。

三重県防災危機管理部

(平成24年4月から、防災対策部になります)

TEL 059-224-2184 FAX 059-224-2199 〒514-8570 津市広明町13番地

平成22年3月初版
平成24年3月改訂2版